

信用金庫における インターネット利活用を加速させる 起爆剤に制約のない インターネット活用をセキュアに実現



地域のために働く密着型の金融パートナーとして京都を中心に各種サービスを展開する京都中央信用金庫。同庫では、自席からSaaSを含めたインターネットアクセスを安全かつ容易に実現するべく、オンプレミスの仮想ブラウザからMenlo Securityが提供するWebアイソレーションへの切り替えを実施。ブラウザの利用制限なく快適な業務環境を提供することに成功している。そんなMenlo Securityの導入の経緯について、京都中央信用金庫 システム部 サイバーセキュリティ担当部長で執行役員の杉原 早苗氏と、同庫 システム部 課長 広野 耕一氏に話を伺った。

オンプレミス環境で利用してきた 仮想ブラウザの環境が更改を迎える

地域に根差す協同組織金融機関として信用金庫業界トップクラスの規模を誇る京都中央信用金庫。京都府を中心に、大阪府や滋賀県などを営業エリアとして展開しており、京都市内企業のメインバンク社数では1位を獲得するなど、地域のために働く密着型の金融パートナーとしてさまざまなサービスを展開。同庫では地域の未来を前に進めるべく、コンサルティング・DX・地域貢献の3つを重点事業として位置づけ、金融の枠組みにとどまらない社会価値の創出を進めている。

なかでもDXについては、2021年よりスタートした新中期経営計画において「DXへの挑戦」をコア戦略に位置づけており、信用金庫では初めてDX認定事業者に認定されるなど、その取り組みが高く評価されている。「金融機関として強固なセキュリティを堅持しながら、安全かつ安心してクラウドを利活用できる環境の実現に向けた基盤整備に取り組んでいます」と杉原氏は説明する。

そんな同庫がクラウドサービスの利用を進める過程で、インターネットの安全な利用環境を整備するために検討したのが、オンプレミス環境で利用できる仮想ブラウザによる論理分離の環境だった。「利便性の観点からクラウドサービスの利用が今後も確実に増えるなか、営業店の各端末からセキュアにインターネットが利用できる環境を検討しました。コストも考慮した結果、オンプレミスで利用する仮想ブラウザの導入を進めたのです」と杉原氏は当時を振り返る。

こうして導入したオンプレミス環境で仮想ブラウザを運用してきた同庫だったが、サーバの保守期限を迎えることになり、新たな環境を検討することになった。

業界での豊富な実績と クラウドサービス利用での運用負荷軽減に 貢献すると判断

これまで、仮想ブラウザによって自席の端末からでも安全なインターネット接続が可能になった環境は評価されていたものの、長年の運用のなかで、利用可能なブラウザの制限が課題となっていた。そのため、新たな環境には、既存環境の課題解消につながる仕組みが求められた。「特にMicrosoft Edgeが利用できない環境で、利用できるSaaSに制約が出ていました。また、金庫側のネットワークに何かダウンロードファイルを取り込む際には、二段階ほどのプロセスを経る必要があり、そのひと手間が負担になるという声も寄せられていたのです」と広野氏は振り返る。

以前から職員はシンクライアント環境を利用していたことで、仮想ブラウザ経由でEラーニングや音声を伴うような仕組みを利用すると、音声の遅延や聞き取りにくいといった課題も顕在化していた。「多少我慢すれば使えるのですが、論理分離によるクラウド活用が大きく広がるなか、ブラウザの制約で利用できない環境は回避したかったのです。新たな環境では制約なく利用できる環境を期待しました」と杉原氏は語る。



京都中央信用金庫

社名：京都中央信用金庫

業界：金融

所在地：京都府京都市下京区四条通室町東
入函谷鉦町91番地

URL：<https://www.chushin.co.jp/>

「ON YOUR SIDE 一緒にうれしい」をスローガンに掲げ、地域に根差す協同組織金融機関として預金量・貸出量で信用金庫業界トップクラスの規模を誇る。京都府を中心に、大阪府や滋賀県などを営業エリアとして展開しており、地域の未来を前に進めるために、コンサルティング・DX・地域貢献の3つを重点事業として位置づけ、金融の枠組みにとどまらない社会価値の創出を進めている。

ソリューション

- Webアイソレーション

課題

- 利用ブラウザの制限によるSaaS活用や業務の制約
- Eラーニングをはじめとした音声・動画の著しい遅延
- オンプレミスサーバの運用保守および緊急パッチ対応の負荷

効果

- ブラウザの制限がなくなり、自宅と同様の操作性でインターネット環境を整備
- 音声・動画の遅延が解消され、効率的な教育・情報活用が可能に
- 現場からの問い合わせが1/10以下に激減し、システム部の負荷を軽減
- クラウド移行により、サーバ保守やパッチ管理の運用負荷から解放



京都中央信用金庫
システム部
サイバーセキュリティ
担当部長
執行役員
杉原 早苗氏



京都中央信用金庫
システム部
課長
広野 耕一氏

そこで注目したのが、金融機関に実績豊富なMenlo Securityが提供するWebアイソレーション製品「Menlo Security Remote Browser Isolation」(RBI)だ。「特に大きかったのは、金融業界全般に幅広い導入実績があることで、我々も安心して利用できると考えたのです」と杉原氏。また、クラウドサービスとして利用できるため、サーバの保守を含めた負担が軽減できるだけでなく、昨今のフロンティアAIに端を発した高度な脅威への対策についても、自らセキュリティパッチを適用せずともサービス側での対策が進んでいくことが期待できるなど、コストも回収しやすいと判断した。

使い勝手の面でも、従来に比べて大幅な向上が期待できることが決め手となった。「家で普通にインターネットを使うように、デスクトップのブラウザをダブルクリックするだけで使えるようになります。操作性の良さは大きな魅力でした」と広野氏は語る。プリントアウトやファイルのやり取りなど、以前からストレスがかかっていた操作も、ドキュメントアイソレーションの機能を使うことで、普通の感覚で使えるようになる点を評価に挙げた。

結果として、安全なインターネット利用を可能にする論理分離の環境に、同製品が新たに採用された。

問い合わせは10分の1以下、 運用負荷を低減しながら利便性向上を実現

現在は、全職員およびグループ会社のメンバーを含めた3,000ほどのユーザーがMenlo Securityを利用しており、営業店などの現場で利用するシンクライアント端末から任意のブラウザをクリックすることで、Menlo Securityを経由してWebサイトにアクセス、無害化された状態で閲覧できるようになっている。オンプレミスで利用するメールやクラウドPBXによるIP電話の通信以外のPCを使ったインターネット通信は、全てMenlo Securityを通る運用になっている。

「Gmailをはじめ、個人アカウントで利用できるサービスなどはアクセス制限を行っており、ファイルのアップロードは原則禁止の運用となっています。基本的にはカテゴリを軸にブラックリストとして通信を禁止していますが、業務上必要だと判断したものは除外設定で対応しています」と広野氏。ただし、なかには京都地場の企業がゲームや賭け事のカテゴリに振り分けられてしまうこともあり、その都度、除外設定で柔軟に対応している状況だ。金融機関という特性上、顧客が所属する業界が多岐にわたっており、カテゴリによるアクセス制限がかかってしまう顧客も少なくないが、従来よりも詳細な制御が可能になっていると評価する。



システム部としても、オンプレミスサーバの管理から解放されたメリットは大きいです。運用負荷を抑えつつ、最新の脅威に対応し続けられるクラウド型の強みを実感しています”

京都中央信用金庫
システム部
課長
広野 耕一氏



以前はセキュリティのために利便性を犠牲にするのは仕方ないという空気もありましたが、Menlo Securityの導入により、高度な防御と快適な操作性は両立できることが証明されました。現場の不満が解消されたことが最大の成果です”

京都中央信用金庫
システム部
サイバーセキュリティ担当部長
執行役員
杉原 早苗氏

以前の環境からの移行については、ブラウザからの通信を全てMenlo Securityに振り分ける処理を行うだけのシンプルなもの、個人的にブラウザ上に登録されたお気に入り情報など現場ごとに移行をお願いしたものの以外は、大きな負担もなく移行することに成功している。

また、事前のチューニングによってセキュアな環境を維持したまま利便性を低下させずに運用できるようになり、音声が届かない、プリントアウトできない、アクセスできないといった問い合わせなどの頻度は劇的に減っているという。「おそらく問い合わせは10分の1以下にまで減っています。確実に利便性の向上にMenlo Securityが寄与しているといえるでしょう」と広野氏。特に新しいSaaSを利用する際には、以前であれば利用しているWebブラウザで閲覧できるか、プルダウンがきちんと機能するかといった事前チェックが欠かせなかったが、今は全く気にすることなくサービスが利用できるなど、事前準備の負担も軽減できていると力説する。

金融当局からフロンティアAIに対する短期的な対応に関する要請文が出たことがあったが、もしオンプレミスで管理していればセキュリティパッチの適用などを最優先事項として作業する必要があったという。「以前は4台ほどのサーバで仮想ブラウザを運用していましたが、全てにパッチを当てていくのはとても大変です。クラウド環境で提供されるMenlo Securityだけに、急な運用による負荷から解放されたという思いはあります。セキュリティが以前よりも強化されたというよりも、運用の負担軽減には確実に貢献しているといえるでしょう」と杉原氏からも好評だ。

さらなるセキュリティ強化に向けた ゼロトラスト検討も視野に

すでにインターネットアクセス時に全職員が利用しているMenlo Securityだが、次のOA環境更改の際には、これまで以上に堅固なセキュリティ環境の整備を進めていきたい考えだ。「いずれはゼロトラスト環境の整備についての方向性も見定めていく必要があります。すでにMenlo Securityが提供するCASBの機能も使いはじめていることから、ゼロトラストの議論は進めていきやすい」と杉原氏は意欲的だ。

いずれはMenlo File Securityによるファイルの無害化や金融庁のガイドラインにも示されているDLPも含め、さらなるセキュリティ強化に向けた施策を検討していきたいとのこと。「金融機関として高いセキュリティを維持しながら、現場のDXを阻害しない環境を作ることが我々の使命です。Menlo Securityは、その基盤として今後も重要な役割を担ってくれると期待しています」と両氏に今後の展望について語っていただいた。